



ロータリーは機会の扉を開く

(国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク)
2020-2021年度 国際ロータリーのテーマ
「ロータリーは機会の扉を開く」

(第2660地区ガバナー 簡 仁一)

WEEKLY BULLETIN
**OSAKA
NAMBA**
大阪難波ロータリークラブ週報

今日の卓話	次回の卓話	ロータリー4つのテスト
<p>10月29日(木)</p> <p>テーマ 「私のロータリー活動について」</p> <p>卓話者 岡本真一郎 会員</p>	<p>11月5日(木)</p> <p>テーマ 「ガバナー公式訪問」</p> <p>卓話者 国際ロータリー第2660地区 簡 仁一 ガバナー</p>	<p>言行はこれに照らしてから</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第15回例会 本日のプログラム

開 会 (点鐘)	通算第2105回例会
・ロータリーソング	「我らの生業」
・ソングリーダー	本間一成会員
・来客紹介	友好委員

会 食

・歌とピアノ	木下裕子
・会長報告	川口栄計会長
・幹事報告	福田 忠幹事
・委員会報告	各委員長
・出席報告	出席委員
・ニコニコ箱報告	SAA
・卓話	

閉 会 (点鐘)

♪ 我等の生業

我等の生業なりわいさまざまなれど
集いて図る心は一つ
求むるところは平和親睦やわらぎむつび
力むるところは向上奉仕つと
おゝロータリアン 我等の集い

ニコニコ箱報告	
前回の合計	¥90,000
本日までの累計	¥1,088,000 (81%達成)
10月末の予算額	¥1,330,000

出席報告		
前回	10月22日	3週前 10月1日
会 員 総 数	58名	出席免除を除く MUを含む 修正出席率72.22%
出 席 会 員 数	35名	
出 席 率	66%	

大阪難波ロータリークラブ	例会日時	毎週木曜日	12:30
創立	1976年8月5日	例会場	スイスホテル南海大阪7階 芙蓉の間
会長	川口栄計	幹事	福田 忠
事務局	〒542-0076 大阪市中央区難波5-1-60	会報・雑誌委員長	三島敏宏
TEL	06-6632-3956	事務局	安部亜希子
FAX	06-6632-3957	e-mail	osaka-namba@poem.ocn.ne.jp

て、今に至っています。
その後のれん分けを受け昭和59年に独立開業することになり、はじめは事務所も持てず自宅を拠点として子育てをしながら夫婦でスタートしました、失敗も挫折も経験したものでした。
本業の仕事では社労士として、平成10年に大阪会府下13支部の南部支部(大和川以北6区)の支部長に選出され、会員220名のお世話をさせて頂きました。

私は所属団体の長はその構成する会員のお世話係だと思っています。いかにして職域を守り、会員の仕事のし易い環境づくりをすることがその役割であるに対応をしていました。一方企業の経営者は違います、従業員の統率力や管理能力、経営においては事業環境の変化に対応する先見性等の資質が求められます。

その後、大阪府社労士会(法律では都道府県ごとに一つ)では当時会長の久保田さんに引き立て頂きました。この方や大阪会の中心となる人達の強い推挙があり、平成15年6月に大阪会の会長に選出され4年間務めました。一気に会員が3200名のお世話係となったのでした。54歳の時でした。

在任中の四年間には社会的に大きな出来事がありました、平成17年4月にJR西日本の福知山線の脱線事故です、106名の死者、562名の重軽傷の負傷者が発生し、日本が鉄道の歴史で経験をしたことの無い大惨事となりました。我々の同業者である兵庫県会の女性会員もその被害者の一人でした。当然JR西日本が加害者で賠償等、補償義務は会社側にありますが、被害に遭った人たちは、通勤、通学に列車を利用していた人達で、当面、医療機関に搬送されても公的保険制度が先行し適用される事案でありました。(勤務先への通勤途上の方は労災保険、自営業や学生・主婦の方は健康保険等)で医療機関への受診時からの保険請求の対応などでしたが、行政の相談窓口も異なり混乱していました、これは速やかに不安な問題にワンストップサービスで答える必要があると考え、これらの保険制度を生業とする社労士として、大阪会を挙げて無料電話相談コーナーを開設置し対応したのでした。

もう1件は、第一次安倍内閣が倒れる原因にもなった「消えた5千万件の年金記録問題」の発覚でした。

年金に加入していたはずなのに、年金がもらえない、又、宙に浮いた誰の記録かわからない」、これに加えて国会議員の年金加入記録ののぞき見等、未納三兄弟と報道された事も社会問題になりました。

原因は、紙媒体からデータベース化に移行する際に、漢字表記からカタカナへの変換で生じた問題が一因でもありました(多くはアルバイトなどを活用して登録を行った結果生じた事柄で)。人名など本人に聞かなければわからないものです、氏名の濁点がある・なしで、これらはデータ上も別人として扱われました。

当時の社会保険庁は、年金請求時にこれらを確認することができる・・・と考えていたフシがありま

した、どういうことかと言えば年金請求書時に職歴を記載する事にしていましたが、転職が多ければ本人も記憶が定かでなく判らないケースも多くあり・・・。

これらの問題が年金に対する不信感を招き、社会保険庁が解体され消滅することになった原因でもありました。結果、政府として社会保険庁を所管する厚生労働省には任せておけないとして、内閣として総務省行政評価局をこの解決の処理窓口として乗り出したのです。

政権は民主党が握ることになり社会が大きく変わる事になったのです。そこに設置された年金記録確認第三者委員会(これには我々社労士、弁護士、行政相談員、税理士、新聞社論説委員、消費者団体役員等)各界から選ばれ大阪では100名を超える記録回復の可否を決める組織が出来、全国にも波及し設置されました。

国民の関心事でしたので膨大な数の案件(申し立て)が持ち込まれ、毎週委員会(委員が4名、調査員が4名)が開催され、1日約6件の審査が実施されました。大阪では18の部会が設置され記録回復に努めていました。

様々な経験したことが無いような業種に係る方々や申し立て案件が殺到していました。一例を挙げますと(著名な小説家に師事していたとする職員が、作家先生から「君たちの国民年金は私が加入してあげているから」という申し立て内容であった例も、しかし実際には年金手帳や支払った領収書が見当たらない、加入の確認ができない等と様々でした)、当時の国民年金は町会の役員等地域の世話人が集金人として担当し、この人たちに毎月支払っていた等、客観的に見て合理的な主張かどうか、周辺事情から判断して認める場合は記録を回復するなど困難な仕事でもありました。当然これらに便乗して申し立てる人たちも多くなりました。因みにこの難波クラブの会員事業所に勤務していたとする従業員からの申し立ての審議案件もありました。

最後にラッキーな人生で運がよかったと片づけられない程、多くの色々な人達に導かれ今日に至っています、これらのご縁とご恩のおかげでこの年まで生きてこられ仕事にも恵まれました。推薦者であった当クラブの段会員もそのお一人でした。

時代が変わろうとも誠実に一生懸命に何事にも取り組むことで人は評価してくれると思います。本日は皆様にとって貴重なお時間を頂きました。私の生き方・考え方で何か参考になる事柄があるとしたらこんなにうれしいことはありません。今後共、よろしくお付き合いの程お願い申し上げます。



10月は「地域社会の経済発展月間」「米山月間」です

前回の記録 第14回例会 10月22日(木)

★来客紹介：三島友好委員

ガバナー補佐 吉崎広江様
ガバナー補佐エレクト 大谷隆英様
大阪中央RAC 重留里咲様
大阪難波RAC候補者 加藤桜佳様



吉崎広江様 大谷隆英様 重留里咲様 加藤桜佳様

★会長報告：川口会長

1. こんにちは。10月22日例会の会長報告を行います。まず、吉崎ガバナー補佐、大谷ガバナー補佐エレクト、大変ご多用の中、ようこそお越し頂きました。ゆっくりとお過ごし下さい。また本日のクラブ協議会どうぞよろしくお願い致します。
2. 本日の「ロータリアンの足跡」は、先週のビル・ゲイツに引き続き、彼の父、ビル・ゲイツ・シニアとビル&メリнда・ゲイツ財団について書かせて頂きました。元よりシニアは熱心なロータリアンでありました。ビル・ゲイツの社会貢献活動は、シニアの熱心なロータリー活動により、その素地が培われたのかもしれませんが。右下の写真は、彼が所属するシアトルロータリークラブでの父から子への名誉会員としてのバッジの授与式であります。余談ですが、シアトルロータリークラブは会員数が1400人を超えるそうです。また下段には、ゲイツ夫妻とゲイツ・シニアによる財団の歴史、また2ページ目には、ウォーレン・バフェット氏の参加による規模の拡大、世界中での奉仕活動を書いております。どうぞお読みください。特筆すべきは米投資会社バークシャー・ハサウェイを率いるウォーレン・バフェット氏の寄付の凄さであります。ビル・ゲイツの親友である氏は、彼の持つ個人資産の85%を慈善団体に寄付し、うち83%をビル&メリнда・ゲイツ財団に充てられました。これにより彼らの活動は倍増いたしました。この寄付は307億ドルにも上り、「史上最大の寄付」と言われております。財団は、ロータリークラブのポリオ撲滅のみならず、先週お話ししました「水と衛生」への取り組みやライオンズクラブ国際財団(LCIF)との「はしかイニシアチブ・パートナーシップ」は大成功を修めています。ライオンズにも援助していたのは少し悔しいのですが、ライオンズクラブの立案力や広報の上手さは私共ロータリークラブも見習うところが多いかもしれません。これで本日の会長報告を終わります。

★幹事報告：福田幹事

1. 本日例会終了後、吉崎ガバナー補佐、大谷ガバナー補佐エレクトをお迎えし、クラブ協議会を開催させていただきます。各委員長の方はご出席下さい。欠席の場合は代理出席をお願い致します。また、入会3年未満の方も是非ご出席ください。
2. 来々週11月5日例会終了後、定例理事会を開催させていただきますので、理事役員の方はご出席下さい。
3. 本日、地区大会のパンフレットを入れさせていただきました。12月12日(土)グランキューブ大阪にて開催されます。今年度は、新型コロナウイルス対策の為、一日の開催となり入場者数の制限を行い、地区ホームページからのライブ配信を実施致します。例年皆様にお渡ししております名札はございません、登録料の納付もございません。

★委員会報告

◇青少年奉仕/RAC設立準備委員会：林委員長

11月8日(日)ローターアクトの事を知っていたごく懇親会を開催させていただきます。お手伝いにご協力いただける会員の方は、お声がけ下さい。

★ニコニコ箱報告：森副SAA

川口栄計：吉崎ガバナー補佐、大谷ガバナー補佐エレクト、ようこそお越し頂きました。クラブ協議会宜しく申し上げます。

福田 忠：吉崎ガバナー補佐、大谷ガバナー補佐エレクト、本日はようこそお越し下さいました。クラブ協議会宜しく申し上げます。ポリオ根絶募金、授産品チャリティーバザー、皆様のご協力本当にありがとうございました。

千田忠司：道頓堀リバーフェスティバル2020年には、皆様方には大変お世話になり、ありがとうございました。

夏 明義：先週の社会奉仕道頓堀リバーフェスティバル、米澤委員長お疲れ様でした。いい企画でした。

白野陽一：SAAさん、談話室の飲み物、いつもありがとうございます。

伴井敬司：家内誕生日にお花ありがとうございました。喜んでました。

岡西豊博：本日卓話担当させていただきます。

西原芳博：重留さん、加藤さん、RAC設立の打ち合わせありがとうございます。

松浦孝尚：道頓堀リバーフェスティバル、お疲れ様でした。例会欠席お詫び。

中川静夫：嫁の誕生日にきれいな花束ありがとうございます。大変喜んでいました。

米澤 勉：道頓堀リバーフェスティバルでの、社会奉仕事業では皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。

森田 納：道頓堀リバーフェスティバル、お疲れ様

でした。

森 圭司：友好委員でのクリスマス家族会打ち合わせ会では、委員の方々、会長、幹事ご参加ありがとうございました。北橋元会長、大変お世話になりました。ありがとうございました。

清水一人：道頓堀リバーフェスティバル、お疲れ様でした。

上杉竜太郎：例会遅刻お詫び。

三島敏宏：友好委員会、クリスマス家族会の打ち合わせと道頓堀リバーフェスティバルでは皆さんお疲れ様でした。

早栗義文：吉崎ガバナー補佐、大谷ガバナー補佐エレクト、ようこそ難波RCへ。宜しくお願ひ致します。

川井宗次：例会欠席お詫び。

★卓話

テーマ 「自分史」
卓話者 岡西豊博会員

昭和24年2月9日奈良県五條市の生まれで現在71歳となりました。

岡西の家業は吉野杉を使って割りばしの製造業を営んでいました。なぜこのような個人の人生を聞いて頂くことにしたのは、その折々に出会った人とのめぐり逢いや、その人たちのご恩のお陰で今があるのだと思っています。皆様にはご迷惑でしょうが、ラッキーボーイとして私のプライバシーを聞いて頂くことになり、お許しくださいれば幸いです。

私には戸籍上の父親が2名、母親が2名います。実父は後に知ったのですが、川久保、実母が岸本と言いますが、私は奈良県五條市で生まれ、父親は私が35歳の時に育ての母を通じて大阪へ訪ねてきて会う機会があり、この時に自分のルーツを知ることができました。

実父の川久保は海軍に入り、日本軍が南方方面へ進軍する際、空撮隊に所属していたようで、作戦進行前の地形測量等の航空写真を撮る任務であったことが、後の経験として終戦後奈良県五條市に戻り写真館を営んでいたようです。

川久保は戦後に復員し、私の実母である岸本と出会い私が生まれました。2人は一緒になる約束であったようですが、以前、岸本は嫁いだ先で夫の姉との折り合いが悪く、その子供を置いて離婚させられた様でした。

そのこともあってか、川久保の母は大変厳しかった人で、出戻りの岸本との結婚を認めることが無かったようです。

それからの岸本は、2歳くらいまで私を育てていたようでしたが、折り合いが悪かった嫁ぎ先の姉が亡くなって、その後同じ相手と復縁しました。そのことで、川久保は男手で私を育てることになったようです。そうこうしていた折に子どもができなかった岡西家との養子縁組が進んだようでした。

私は実母とは会ったことはありませんが、不思議とその事実が判ってから、実の親に会いたいとは思わなかったものでした。

今から五年ほど前に、その実母が亡くなったということで、子供達が私を探し訪ねてきて、相続放棄の判をもらいに来たことで、どういう人であったかを知ることができました。

少し戻りますが、岡西家に養子として入籍しました(私とその戸籍のことを知ったのは自身の21歳の結婚間際の時でした)、小学4年生まで奈良県吉野郡下市町で生活をしていましたが、大阪に引っ越すことになり、その後母は私が中学1年生の時に正式に離婚し、母子家庭として育てられました。「実の子でもない私を育て上げてくれました」。その母も81歳で他界しています。

母は経済的にも大変苦勞(昼は事務員として勤務し、夜は料理店の皿洗いなど今でいう兼業であったことを)したことを覚えています。

こういう環境下であつても不思議と私は非行に走ることはありませんでした。母の一生懸命な生き方を見ていれば、とても悲しませることはできないと子ども心に芽生えたのだと思います。母は人生を悔いたり人の悪口を一切聞いたことがありません、その影響か私もポジティブな生き方をして

います。さて、私は団塊世代の生まれで同年代では、会員名簿の順で(遠藤会員、本間会員、伊藤会員、夏会員、大地会員、千田会員)がおられそれぞれの分野で活躍されています。

当時は中学校では50人を超える1学級が20クラスもありプレハブの校舎であったことを記憶していません。修学旅行先でも行く先々で学生服の大群が押し寄せていました。

高校を出て、今でいうNTT(当時は電電公社でした)へ就職をしましたが、面倒見が良く親代わりの叔父の勧めもあり、労務事務所へ転職しました。当時は未だ国家資格ではない民間の個人事務所時代でしたので、何か形の残る仕事がしたいと思うようになり、辞めたいと思う気持ちも当時頭をもたげていました。そんな優柔不断な気持ちのまま辞めることも無く、働き続けていた様に思います。そうこうしている内に、この仕事で生計を立てていくしかない状況になったのです。後で話がつながりますが結婚がそれをさせました。

さて、経済的にも母に負担を掛けなくなかったこともあり、労務事務所へ就職してからすぐ近畿大学の2部へ進学したのです。

2部とは夜間学生のことで昼間は働き夜に通学していました。従って近大生でありましたが学業の昼と夜のすれ違いで、夏会員が近大の応援団長として華々しく活躍されている姿に接することも残念ながらありませんでした。

その頃、今の家内とは(私は1回しか結婚をしていませんが)勤め先の娘であり同じように近大生の時に一年遅れで通学を共にすることになり付き合が始まりました。

ところで、職業として社会保険労務士という仕事は昭和43年に国家資格となり、一昨年ようやく50周年を迎える後発の士業でしたが、当時大学の卒業がまっとうされていませんでしたので、受験資格を得るために行政書士資格に挑戦し、かろうじて合格することができました。これをステップとして社労士に3度の挑戦でようやく合格ができました。



世代を紡ぐ インタビュー

私は、「近鉄バファローズの伝道師」です。かつて近鉄という素晴らしい球団が大阪にあったことを若い方々に伝えていきます。私のバファローズ愛は、小学生時代の頃です。当時は野村克也捕手や杉浦忠投手が大活躍する南海ホークスの黄金時代でした。難波生まれ大阪球場近くで育った私の周りは、ホークスファンばかりでした。

一方、近鉄パールス（バファローズ以前のチーム名）は、低迷期で万年最下位が定位置でしたので学校でもバファローズの帽子は私だけでした。しかし、小学校6年の時に南海対近鉄のゲームで、防衛率1点を誇る南海の大エースである杉浦投手をKOして、打ち勝った近鉄を見て感動し、大スターなし・捕手なし・お金なしの近鉄バファローズでも、「猛練習すれば、弱くてもやればできる！」ことを実感し、その時からバファローズに傾倒し、人生を共に歩んだと言っても過言ではありません。まさに判官ひいきがもしれません・・・私の近鉄バファローズファン歴六十年の間に、三原・西本・仰木と3監督のもと、3度のリーグ優勝を経験できたのは、私の人生の中でも最高の喜びです！

これまで、住友信託銀行の仕事の関係で電鉄本社役員や監督とも知り合いになり、一五〇〇回以上の試合や毎年の高崎でのキャンプの応援で多くの選手とも親しくなり、今でも梨田さんやタワイ・ローズさんと親交があります。近鉄の凄いいところは、仲良しクラブではなく、厳しいプロの集団と言えることです。選手向上の普段の親交はほとんどないが、試合中のチームワークは素晴らしい練習量も11球団1で通用した理由の一つを言えると思います。

野茂英雄・吉井理人が大リーグで通用した身売りと合併は大きな差があり、合併されると球団史が引き継がれずチームは解散することになってしまいます。近鉄バファローズと共に歩んできた私にとって二〇〇四年シーズンを最後にオリックスと合併したことは、心にホッカリと穴を生みました。その虚無感を埋めるためにも、有志数名と心斎橋に「BAR FALLOWS」を開店し、そこで、球団から提供していたユニフォームやグッズなどを展示してバファローズが遺してくれたものを語りあっています。未だにバファローズを愛し、熱く語る「変入」がいるということで先日テレビ大阪に出演しました。

今は、近鉄バファローズの素晴らしさを伝承し、バリーグが盛り上がることを祈っています。

クラブ協議会議事録

吉崎ガバナー補佐と、大谷ガバナー補佐エレクトをお迎えして開催されました。各委員長からの活動計画、今後の予定など報告があり、その後ガバナー補佐、ガバナー補佐エレクトから感想、質問、アドバイスをいただきました。大変有意義なクラブ協議会となりました。



これからの予定

- 11月 5日 (木) ガバナー公式訪問・定例理事会
- 11月 7日 (土) 秋のマツタケ狩り 於：藤の坊さんだ山荘
- 11月 8日 (日) ローターアクトの事を知っていただく懇親会 於：スイスホテル南海大阪8F
- 11月12日 (木) 例会
- 11月19日 (木) 例会
- 11月26日 (木) 例会
- 12月 3日 (木) 例会・年次総会・定例理事会